



小林市子議員

### 町地域防災基本計画の見直しで正しい情報発信と整備対策は

#### マニュアル行動計画の整備を進める

**質問**：担当課によって異なる危機管理対応を、明確に誰にもわかりやすく伝えるために、事象別マニュアルのフロー図を作成してはどうか。

**町長**：地域防災計画に原発や放射能、火山等を加えるか、またマニュアルを作成するかなど各担当部署ごとに計画の見直しをする。

**質問**：生命や財産に危険が及ぶような緊急事態が発生した場合、告知放送が設置されていない家

庭への情報発信は、どのように対応するのか。

**町長**：総務課を中心とした態勢で、情報発信の仕組みを整備している。

発信の仕方は、携帯電話へ緊急メールを配信する実験を準備中。LCVのFM放送については、受信範囲の狭さをカバーするために役場屋上に発信局を設置して、災害情報が発信できるよう取り組んでいく。

**総務課長**：風水害、地震に関する防災マニュアルはできている。今後は原発や放射能、火山の噴火、インフルエンザなど、想定される災害状況の多様化に合わせて、マニュアルを整備していく。

**質問**：平日の避難訓練を実施する考えは。

**町長**：勤めを休んでまで訓練に出られる人はいないので、やはり休日に行うしかない。

### ■小規模集落の過疎化対策事業について

**質問**：西山方面、川路方面の集落が抱えている問題・課題は深刻。支援対策の方針は。

**町長**：川路方面の過疎化については、高齢化率が38%と高く、御射山神戸も企業社員の定住者を除けば、同様な傾向が見られるなど、町内で格差が広がっている。農業法人の誘致を考えていく方針だ。

**質問**：地域の優良農地を荒れさせないよう地域の後継者と新規就農者を合体させる様な、地域農業の活性化への対応策は。

**町長**：次世代が何をやるうとしていいのか、良い案があつて納得できるプランを示してくれるれば、町も相談に乗る。将来的にこの町の過疎化対策に向けては、首都圏のベッドタウン化を考えていく。



小池勇議員

### メガソーラーの進捗状況は

#### 順調に進んでおり前倒しで試験開始の予定

**質問**：メガソーラーの進捗状況と、発電開始時期は。

**町長**：すべて順調で、10月20日には試験運転を開始できる。これによって発電された電気も買い取ってもらえる。

**質問**：中部電力との契約状況は。

**町長**：中電との交渉の結果、6600万円の予定を4340万円にすることができ、2260万円の節約になった。買い取り抑制も、まったく問題ない。

**質問**：FMKの役員構成はどうなっているか。

**町長**：代表取締役社長・小林一彦(町長)、副社長・五味正文(副町長)、常勤取締役・中村吉孝、非常勤取締役・窪田福美(商工会長)、武藤本治(地元代表)、五味平一(地元議員)、監査役・岩間光泰(町監査役)。

**質問**：常勤取締役に求められるポイントは。

**町長**：電気の専門家であることは当然だが、加えて町ならびにNTTファシリティーズと緊密な連携が取れること。さらに金融機関との交渉力も必要で、ハードルは高い。草刈等の管理作業もやってみよう。

### ■町長選への再挑戦に関して

**質問**：1期目の総括は。

**町長**：工業誘致は不況で結果を出せなかったが、農業法人の誘致で雇用確保ができた。長く町

を苦しめてきた「パノラマ」土地公の負の遺産解消に目途が立ったことは大きい。あと7年ですべてが解消できる。他の公約は積極的な取り組みをしたが、十分な成果を出せたとはいえない。2期目にはこの点に注力したい。

**質問**：町の現状認識と政策のポイントは。

**町長**：人口減少が明確になった。30%減少との予測もある。成果が出ている新規就農者の導入を進めつつ、リニア等の新たなインフラに対応できる政策を考えたい。

**質問**：地域間アンバランスをどう考えるか。

**町長**：深刻な問題。工業は難しいが、魅力ある特産品で定着を図りたい。ワイン、カシス、アスパラ等に期待している。